

学校概要

創立 44 周年	学校長 加藤 慎治	副校長 小谷 広	学期 2 学期制	児童・生徒数 602 人
学級数 一般級: 16 個別支援級: 3		主な関係校: 中田小学校、東中田小学校		

学校教育目標

- 知: 目標に向かって努力する生徒
- 徳体: お互いを認め、命を大切にす生徒
- 公開: 社会に貢献する生徒

学校の特徴

□のどかな畑作地帯を残し、開発に伴う人口の流入もあるが、中田の街で暮らす人々が 学校の良き理解者となり、学校の教育活動に協力的である。地域との結びつきが強く、地域の連合自治会を中心とした交流事業が活発に行われている。

□小中ブロック3校の結びつきが強く、特にPTAの交流が活発に行われている。

□素直で人懐っこく、優しい生徒が多い。

■TPOを考えて行動することがうまくできず、自分で考えて判断する力が弱い。

学校経営中期取組目標

- 生徒ひとり一人が生き生きと活動し、自分の居場所を感じられる学校づくりを進めます。
- ・小さな達成感の積み重ねを大切にし、自己有用感・自尊感情を育てます。
- ・個に応じた指導を充実するとともに、考える授業の実践を目指します。
- ・他者理解に努め、違いを認め合い、人と人とのつながりを大切にす心を育てます。
- ・しっかりと自分の考えを持ち、目標に向かって粘り強く行動する力を育てます。
- ・教職員のチームとしての力を高めるとともに、家庭・地域および小学校・関係諸機関との連携を深めます。

小中一貫教育の取組

中田中	ブロック	中田中学校、中田小学校、東中田小学校
9年間で育てる子ども像	学校・家庭・地域が一体となった9年間の豊かな体験活動を通して、 ・自分も他者も大切にす心を育てます ・自分で考え判断する力を育てます ・中田のまちの良さを愛する心を育てます	
自校の具体的取組	・小中学校教職員相互の共通理解をより深めるために、合同研修会を活用し、指導観・評価観の共有を図ります。 ・地域行事に積極的に参加協力する態度を育て、地域を愛する心を育てます。	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	基礎・基本の定着を図るとともに能動的な学びの視点を大切に知識を活用する力を育てる。指導と評価の一体化を図り学習意欲の向上を目指した評価を行う。	①校内授業研究月間や小中一貫教育ブロックで授業公開を行い、より分かる授業を研究推進する。②数学科、英語科で少人数指導を通して、基礎基本の定着をはかり、習熟度別学習も取り入れる。③年度末に授業評価を実施し、集計結果から授業改善につなげる。④授業研究月間に授業を見合い、意見交換、振り返りを行い授業力向上につなげる。
豊かな心	自他の相違を知り、お互いを認め合いながら、より良い人間関係を作ろうとする。規則を遵守する意識を高めTPOに応じた言動ができるようにする。	①「道徳の時間」の授業を充実させるための環境を整え、教職員の授業力の向上を図り、生徒一人ひとりが多様な価値観を認識しつつ、自分で考え、他者と対話し協働できる資質を育てる。②人権研修会の内容を生徒、教職員双方でリンクさせ、充実を図る。③清掃活動の充実重点を置き、環境美化に努めようとする心情を育てる。
健やかな体	体育的な活動や学校行事を通して健康についての意識の向上を図る。心身ともに健康で安全に学校生活を送ろうとする自発的な態度を育てる。	①小学校の栄養教諭と連携した「食育」を推進する。②健康教育(喫煙・飲酒・薬物乱用防止)を通して、自分の体は自分で守ろうとする態度を養う。③学校保健委員会を開催し、家庭や地域と共に健康や安全を考える機会をもつ。④毎月の安全点検を通して、安全に学校生活を送ろうとする心情を育てる。
児童・生徒指導	相談活動や振り返りを活用して生徒ひとり一人のメンタル面の把握に努め、寄り添いながら生徒理解に基づいた指導・支援を行う。	①長期休業明けに教育相談を行うことで生徒の変化に気づけるよう努める。②毎月の振り返りを利用して生徒一人ひとりの気持ちの変化や学校生活での不安を把握し、生徒の状況に応じ、生徒に寄り添った指導や支援ができるようにする。
特別支援教育	個々の特性に応じた指導が出来るよう情報交換を定期的に行い教職員の共通理解を深める。関係機関との連携を密に行い丁寧な支援を行う。	①特別な支援が必要な生徒を学年ごとに確認し、個別の指導計画、個別の教育支援計画を作成する。②全職員による情報共有を行い、共通理解を図る。③小児療育センターより定期的に特別支援教育委員会に参加してもらい、支援の方法を検討する。また、通級指導教室との連携を図る。④校内研修を通じて、教職員の発達障害に対する理解を深める。
キャリア教育	職業講話、職業体験や進路学習等を通して将来を見据えた職業観を育て、自分の特性を生かした進路選択が出来るよう指導する。	①職業調べに主体的に取り組み、職業講話を通して職業についての理解を深め、学習成果をまとめて発表し合う。②職業講話から職場体験につなげるキャリア教育を充実させる。職場体験によって地域社会の一員としての自覚や礼儀を身につけ、自分の適性について考えたり将来の進路選択の参考にしたりする。③進路について学習した成果をレポートなどにまとめ発表することで、表現力を高める。
地域連携	地域の行事への参加を通して地域の一員としての自覚を持たせ、地域を大切にす心を育てる。・地域の教育力を学校に生かせるような取組を継続して行う。	①地域行事への生徒参加を促し、学校外の生徒の活躍を職員に周知していくことで共通理解の上で生徒に携われる環境を作っていく。②地域の方を講師として招くことで、地域の教育力を学校の現場に生かしていく。
人材育成・組織運営	学年・教科を軸とした日常の研修の機会を大切にし、経験年数に応じた学習指導や生徒指導力の実践力のさらなる向上に努める。	①月1回の学年会の中で研修の機会を持ち、学習指導や生徒指導の研究を深める。②企画会を通して各部署との連絡調整を行い、組織の活性化に努める。

いじめへの対応

生徒一人ひとりのメンタル面の把握に努め寄り添いながら生徒理解に基づいた指導・支援を行う。また、情報の共有を図り、学校全体での組織的な対応を行う。	①長期休業明けの教育相談や、毎月の振り返りを活用し、生徒一人ひとりの気持ちの変化や学校生活での不安を把握し、生徒の状況に応じた寄り添った指導や支援ができるようにする。②生徒の内面を理解し、特性に合わせた適切な支援が行えるように職員研修を行い、支援体制を確立する。
担当	いじめ防止委員会